



岐剣連 広報

第 52 号

令和4年6月1日



岐阜県春季少年剣道錬成大会の一コマ

岐阜県剣道連盟

目次

会長あいさつ	1
全国大会の成績	
全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会	2
全日本都道府県対抗剣道優勝大会	3
とこわか国体代替大会「とこわか剣道大会」	3
東海ブロック大会	4
全日本東西対抗剣道大会に出場して	5
全日本選手権に出場して	5
全日本女子剣道選手権に出場して	5
岐阜県剣道選手権	6
生涯剣道	6
祝昇段	7
少年剣道	8
中学剣道の記録	10
高校剣道の記録	11
道場連盟の活動	14
居合道の活動	15
事務局だより	15
令和4年度・5年度 新役員	16
訃報	16
令和4年度事業計画	

ごあいさつ



岐阜県剣道連盟

会長
堤 俊彦

会員の皆様には、日頃より本連盟発展のために御尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

昨年、新型コロナウイルス感染症による影響が長期化し、剣道の稽古ができない状況や大会等も中止せざるを得ない状況が続きました。

特に残念なことは、開催県として、万全の体制で準備してきました「全国健康福祉祭ぎふ大会」が、中止になったことでもあります。今回は、中止にはなりましたが、令和七年には、岐阜県で開催することが決まりました。今回、開催に向けて取り組んできたことを活かし、再度、大会の成功と優勝を目指し、頑張っていたきたいと思います。

新型コロナウイルス感染症拡大が続き、スポーツ活動が制限される中、昨年、十月可児市に武道場「漱玉館」が新たに完成しました。岐阜県の剣道発展にも関わる道場として期待したいと思っています。

新型コロナウイルスは、まだまだ収束しておりませんが、できる限りの拡大防止対策をとり、今年も更に剣道に精進していただき、伝統ある剣道の普及発展にご尽力いただきたいと思えます。

今回ここに「第五十二号岐阜剣連広報」を発行するにあたり、全国大会や県大会で頑張っておられる選手の姿を掲載させていただきました。これからの剣道大会で活躍される皆様の少しでも参考になればと思います。

今後皆様様の御協力を賜りながら、広報活動にも力を入れ、連盟の強化に取り組んでまいる所存であります。皆様様の益々の御健勝をお祈り申し上げて、あいさつといたします。

全国大会の成績

第13回全日本都道府県

対抗女子剣道優勝大会

本県チーム二大会連続堂々三位入賞

監督 富多 ちはり

七月十日、大会会場を一昨年度開催の日本武道館から『ジェイテクトアリーナ奈良』に移し、二年ぶりの開催となりました。

全日本剣道連盟 稲川泰弘会長から、「暫定的な試合・審判法で行うことになるが、正面からの真つ向勝負、正しい望ましい試合を期待する。それが観ている者に感動を呼ぶ試合となる。」と挨拶がありました。試合者・審判からは、緊張感とこれから始まる試合への意気込みが感じられました。

今年の選手は次の5名です。

- 先鋒 井上 彩良 (中京高校)
- 次鋒 外山 菜緒 (筑波大学)
- 中堅 伊藤 美沙 (笠松刑務所)
- 副将 山北 麻未 (会社員)
- 大将 成瀬 有紀恵 (高校講師)

初戦は優勝の実績がある新潟県です。先鋒が攻め続ける試合で2本勝ちをし、チームを勢いづけました。四対一の圧勝です。立ち上がりの良い試合ができました。それからは、神奈川、宮崎、福岡と力のある県との勝負が続きました。苦しみながらも岐阜の持ち味である粘り強くチーム全員で繋ぐ試合で、準決勝まで進

試合結果

1 回戦

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗
岐阜	井上 (⊗) ド	外山	伊藤 (⊗) メ	山北 (⊗) メ	成瀬 (⊗) メ	(7/4)
新潟		(⊗) メ				(1/1)

2 回戦

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗
岐阜	井上 (⊗) メ			山北 (⊗) メ	成瀬 (⊗) メ	(4/2)
神奈川			伊藤 (⊗) メ			(3/1)

3 回戦

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗
岐阜	井上	外山	伊藤 (⊗) コ	山北 (⊗) コ	成瀬 (⊗) メ	(5/3)
宮崎	(⊗) メ					(1/1)

準々決勝

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	勝敗
岐阜	井上	外山 (⊗) メ		山北 (⊗) メ	成瀬 (⊗) メ	成瀬	(4/2)
福岡	(⊗) メ	(⊗) メ					(4/2)

準決勝

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗
岐阜	井上	外山	伊藤 (⊗) コ	山北	成瀬	(1/1)
熊本	(⊗) メ	ド		(⊗) コ	コ	(6/4)

むことができました。面マスク、シールド、五分間の試合時間で、かなり体力も消耗してしまいました。しかし、試合が終わるたびお互いに声をかけ合い、試合に集中することができました。

準決勝は熊本県です。先鋒、次鋒と負けてしまい後がなくなりしました。ここで中堅が踏ん張り、1本勝ちです。「よし、またここから勝負が始まる」と期待をしましたが、流れを変えることができず、準決勝で敗退という結果に終わりました。熊本県との力の差をやや感じ、課題を残す試合内容であったと思います。ここ

で出た課題をこれからの稽古に活かし、さらに岐阜女子の力をつけることに繋げたいと思います。

選手はコロナ禍にあっても、体調の維持や試合への準備を怠ることなく、この大会に向け、よく頑張ったと感じられます。今回も三位入賞という素晴らしい結果を残すことができました。十三回の大会(十二回大会はコロナ感染症拡大のため中止)で優勝二回、準優勝三回、三位二回の実績がある岐阜女子です。出場する選手は毎回プレッシャーを感じながら戦っています。その気持ちに打ち勝って、今年も新たな岐阜女子の歴史を創ってくれました。

最後になりましたが、いつもご指導下さる先生方、応援して下さいる仲間の皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございます。



3位入賞の岐阜県チーム

これからも、岐阜女子一丸となつて頑張っていきます。

全日本都道府県対抗 剣道優勝大会結果

監督 谷口 一眞

この大会は、令和三年四月二十九日、大阪市内の「エディオンアリーナ」で開催予定のところ、新型コロナウイルス感染症のため延期となり、十二月二十六日和歌山市の「ビッグホール」にて開催されました。

コロナ禍において、県内では、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が発令され、稽古場所や稽古相手に苦慮しながら、各選手は試合にベストな体勢で望めるよう工夫・努力を重ねてきました。

選手は

- 先鋒 阪野 理達 【高山西高校】
- 次鋒 杉田 龍太郎 【鹿屋体育大学】
- 五将 大橋 賢也 【岐阜刑務所】
- 中堅 坂本 太一 【岐阜薬科大学】
- 三将 五十嵐 洸 【岐阜県警察】
- 副将 谷村 祐樹 【株】日本耐酸塩
- 大将 小池 徳久 【株】IA技研

初戦は山形県との対戦で、選手の顔には若干緊張が現れているように見えたが、先鋒の勝利で流れを掴み、この後も勝利を重ね、結果は五対一と勝利することが出来ました。

二回戦は茨城県と対戦しましたが、初戦とは対称的に一対五で敗退しました。この大会を通して感じたことは、決め技（得意技）を生かす為の攻防の在り方や相手を威圧する中心を攻める剣道等について考えさせられました。

試合内容は、以下のとおりです。



開会式（和歌山ビッグホール会場）

先鋒	阪野 理達	山形県	長谷川 柏倉
次鋒	杉田 龍太郎	山形県	長谷川 柏倉
五将	大橋 賢也	山形県	長谷川 柏倉
中堅	坂本 太一	山形県	長谷川 柏倉
三将	五十嵐 洸	山形県	長谷川 柏倉
副将	谷村 祐樹	山形県	長谷川 柏倉
大将	小池 徳久	山形県	長谷川 柏倉
先鋒	阪野 理達	茨城県	吉倉 武蔵
次鋒	杉田 龍太郎	茨城県	吉倉 武蔵
五将	大橋 賢也	茨城県	吉倉 武蔵
中堅	坂本 太一	茨城県	吉倉 武蔵
三将	五十嵐 洸	茨城県	吉倉 武蔵
副将	谷村 祐樹	茨城県	吉倉 武蔵
大将	小池 徳久	茨城県	吉倉 武蔵

とこわか国体代替大会

「とこわか剣道大会」開催

監督 谷口 一眞

新型コロナウイルス感染症のため、鹿児島国体に続いて三重国体も中止となりました。二年連続で国体が開催されなかった事は、史上初めてではないでしょうか。各県において予選会を勝ち抜いた選手にとっては、最高の舞台で、自分の技量・勇姿を思う存分発揮できる場所が無くなったため、大変残念な思いを抱かれましたことと推察いたします。

そのような中で、九月下旬、三重県剣道連盟から国体代替大会として「とこわか剣道大会」を十一月二十一日伊賀市内の施設「ゆめドームうえの」で開催しますとの案内を頂きましたので、選手のためにも良い機会であると考え、大会に参



岐阜県チーム

加する事を決定しました。

岐阜県選手は

- 先鋒 江口 海里 (刑務官)
- 次鋒 川畑 竜也 (教員)
- 中堅 高木 和哉 (刑務官)
- 副将 早田 千広 (会社員)
- 大将 小池 徳久 (会社員)

で試合に望みました。最初は三チームのリーグ戦で、試合結果は左記のとおり

先鋒	中村 一	江口	星子
次鋒	西川 引分け	川畑	大内田
中堅	尾崎 引分け	高木	森園
副将	藤井 一	早田	竹中
大将	中越 一	小池	濱田

一回戦石川県とは大将戦になり、双方間合いの駆け引きによる打突の攻防が見られましたが、小池選手が前に出ようとした瞬間を捕らえた中越選手の面が決まりました。

二回戦鹿児島県は、今年の全日本選手権者である星子選手と元世界選手権個人準優勝者の竹中選手を擁するメンバーに挑みましました。先鋒の江口選手は、立ち上がりから果敢に攻め込み、スピードのある動きから面に飛び込みましたが、旗は上がりず中盤からは星子選手のペースとなり二本負け、次鋒川畑選手は、終始相手の動きを読みながら対戦し豪快に面を決め一本勝ち、中堅高木選手と副将早田選手は、善戦するも二本負け、大将小池選手は、濱田選手に気負けすることなく素晴らしい面二本で勝利しましたが、対戦成績二勝三敗で負け、リーグ戦敗退となりました。

大会規模は、北海道から鹿児島まで、

男女各十二チームが参加し、三チームのリーグで戦いリーグ一位のチーム（四チーム）が決勝トーナメントに進み、男女共に三重県が優勝しました。

このコロナ禍で、数々の大会から遠ざかっていた選手にとって試合が出来る有り難さを知りました。更には、他県選手との交流もあり今後の剣道人生にプラスになるのではないのでしょうか。

最後に、コロナ禍において感染対策をしながら、この大会を開催して頂いた三重県や三重県剣道連盟に対しまして心から感謝したいと思います。



岐阜県成年選手団

三重とこわか

国体代替大会に出場して

監督 荻田 ひろ美

「三重国体中止」この言葉を聞いたのは、

ブロック大会にむかう道中、もうすぐ会場に着く車内でした。新型コロナウイルスのまん延防止のため、十分な稽古ができていない状況ではありましたが、選手は「とこわか国体」の出場を目指して、今できることに精一杯取り組んできました。そんな中、ネットを通じて聞こえてきた「国体中止」に動揺は隠しきれませんでした。「ブロック大会はやるのかやらないのか」、会場に到着してからもそんな雑音で一杯でした。そして勝ち取った国体出場権。これほど悔しく、残念な優勝はありませんでした。

しかし、こうして代替大会を開催して頂き、規模は小さいけれども、「試合ができる」ことに感謝の気持ちしかありませんでした。選手ももう一度気持ちを奮い立たせ、大会に臨みました。

女子は各ブロックを勝ち抜いてきたチームがほとんど参加し、まさに国体と同じような環境の中で試合ができました。結果は北海道には1-1の本数勝ち。茨城に0-2で負けてしまい、決勝トーナメントに進むことはできませんでした。特に茨城に対しては、勝てる試合を落としてしまったという思いが強く、それぞれが自分の試合内容を振り返っていました。この姿からも、選手はすでに来年の大会に向かっていると感じました。

昨年からのコロナによってさまざまな大会が中止になったり、稽古ができなかったり、また、試合の様相も変更になりました。それによって今回のように改めて剣道ができることへの感謝の気持ちも増え、活躍できるような前進

したいと思います。

選手 先鋒 吉田沙紀
中堅 山北麻未
大将 成瀬有紀恵

第42回東海ブロック大会

令和三年度国民体育大会第四十二回東海ブロック大会が、八月二十二日（日）静岡県武道館で開催されました。

東海四県の内、国体開催県の三重県を除き、愛知、岐阜、静岡の三県でリーグ戦方式で行われ、岐阜県は、成年女子一位、少年男子二位、少年女子一位という好成績でした。

試合結果は、次のとおりです。

成年女子の部

県名	静岡	岐阜	愛知	勝数	勝者数	勝本数	順位
静岡		△ 1 1	○ 2 2	1	3	3	2
岐阜	○ 3 2		○ 2 2	2	4	5	1
愛知	△ 2 1	△ 1 1		0	2	3	3

少年男子の部

県名	静岡	岐阜	愛知	勝数	勝者数	勝本数	順位
静岡		○ 4 3	○ 3 3	2	6	7	1
岐阜	△ 3 2		○ 6 4	1	6	9	2
愛知	△ 2 2	△ 3 1		0	3	5	3

少年女子の部

県名	静岡	岐阜	愛知	勝数	勝者数	勝本数	順位
静岡		△ 4 2	△ 4 1	0	3	8	3
岐阜	○ 4 3		○ 5 3	2	6	9	1
愛知	○ 7 4	△ 4 2		1	6	11	2



東海地区予選の岐阜県チーム

全日本東西対抗 剣道大会に出場して

早田 千広



令和三年九月五日、大分県大分市（昭和電工武道スポーツセンター）にて第六十七回全日本東西対抗剣道大会が開催され、東軍十八将として出場させていただきました。

このような長い歴史を有し、日本剣道界最高峰の一つである本大会に出場させていただき、この上ない喜びであり、関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。

今年にはコロナ禍による暫定ルールで、五分間の三本勝負とされ、時間内に勝敗が決しない場合は、三分ずつ区切り、延長三回で決まらなければ五分の休憩を挟むというルールのもとに実施されました。大会にあたり意識した事は、勝負は二の次、正々堂々と、まずは自分から積極的に攻め、自分の剣道を全部出し切る事を心掛け試合に臨みました。

対戦相手は、和歌山県の木原先生で、全日本選手権でも活躍し、上位入賞経験のある選手です。

試合が始まり三十秒あたりで木原選手の面を体捌きでかわしたところで、右足ふくらはぎからドンという音が…まさか

の肉離れでした。タイムを掛け足を伸ばしますが、右足の激痛により立つ事が出来ません。

棄権する事も言われ自分でも悩みましたが、こんな大舞台で棄権したら一生悔いが残ると思いますし、相手選手にも申し訳ないという気持ちもあり、最後までやり切るといふ思いで続行する決意をしました。試合の方は、残り時間十秒を切った所で、木原選手の裏からのツキが決まり、そこで時間となりました。

結果として、自分の剣道を全部出し切るといふ思いとは正反対となっていました。五分間最後まで試合が出来た事は、自分の氣力を最大限に発揮できたと思います。

今回の大会を経験できた事は、アクションを含め、これからの剣道人生の糧になると思います。今後も更に上を目指し精進してまいります。これからもご指導のほど宜しくお願い致します。

全日本選手権に出場して

杉田 龍太郎



令和三年十一月三日、日本武道館において開催された第六十九回全日本剣道選手権大会に出場させていただきました。

日本武道館での開催は久々ということですが、張り詰めた空気と、独特の緊張感が漂っていました。私は、二回目の出場だったので、前回大会での教訓を胸に、さらに挑戦者として思い切りの良い試合をしようという思いで挑みました。

一回戦の相手は、京都府代表の合屋龍選手でした。合屋選手は、私が在学している鹿屋体育大学出身の先輩で京都府警察でも活躍されている素晴らしい選手です。私は、合屋選手の独特な構えと豪快な技を警戒しながら試合をしました。

新型コロナウイルスの影響で、警察官の方々の訓練が再開し十分に稽古ができていない状況のせいか、合屋選手の動きが少し硬い感じがしました。試合序盤から飛び込み面、小手、引き面と積極的に技を出していききましたが、なかなか決め切ることができず延長戦になりました。そして、二回目の延長戦に入ったところで、さらに勝負を仕掛けにきました。しかし、気負いすぎたのか、気が付くと私はコート角に立った状態となり、その矢先思わず反応したところに出小手を拾われてしまいました。勝てると思った慢心が一瞬の隙につながったのだと思います。

今大会は、鹿児島県代表の星子選手が初優勝を果たしました。

私は学生で、しかも一年間の中で、二回も全日本選手権に出場させていただけ貴重な経験をする事ができました。この経験を活かし、感謝の気持ち忘れず日々精進していきたいと思えます。

第六十回全日本女子 剣道選手権に出場して

伊藤 美沙



令和三年九月十九日、奈良県のジェイテクトアリーナで開催された第六十回全日本女子剣道選手権大会に出場させていただきました。

一試合目の相手は滋賀県の八木選手でした。初めて対戦する相手でしたがしっかりと自分のペースで試合をしていこうと思いい試合に臨みました。結果は負けてしまいましたが、反省・課題のみつかる試合となりました。全日本選手権という夢の舞台で試合ができたことは私自身とてもいい経験になり、また新たに目標ができました。コロナ禍で稽古を充分にできませんでした。今大会を通して学んだこと、感じたことを今後の稽古に活かし、さらなる高みを目指して精進していきます。今後ともご指導の程宜しくお願い致します。



岐阜県剣道選手権

七月十一日(日)第六十五回岐阜県剣道選手権大会が、OKBぎふ清流アリーナで開催されました。

例年ですと小学生から中学生、高校生、一般、六十五歳以上の高齢者が参加し行われる大会ですが、今回は、新型コロナウイルス感染症拡大予防策として、会場への入場制限などで一般のみの大会となりました。

約百八十人の参加選手は、各部門毎に分かれ、熱戦を繰り広げました。結果は、次のとおりです。



熱戦を展開した剣道選手権

○試合結果

- 一般女子30歳未満の部
①早矢仕真帆 ②森 雪菜

- ③岩田 美海

一般女子30歳以上50歳未満の部

- ①吉田 沙紀 ②山北 麻未
③杉江 志織

一般女子50歳以上の部

- ①久原 美晴 ②大塚 由美
③大野 一美

二段の部

- ①宮崎 悠粋 ②五十川風汰
③酒井 孝哲

三段の部

- ①藤井 健介 ②牧 幸汰
③小林 琢弥

四段の部

- ①富田 貴斗 ②新田 家己
③野見山広次

五段の部

- ①牧 大佑 ②小保田庸平
③中武 陽介

六段の部

- ①齋藤 慎哉 ②田代 和樹
③山本 雅喜

七段の部

- ①早田 千広 ②森井 俊秀
③石樽 和巳

高齢者の部

- ①森下 真次 ②山崎 昌彦
③大橋 孝人



各部門優勝者のみなさん

生涯 剣道

岐阜県健康福祉祭剣道交流大会兼全国健康福祉祭ぎふ大会選手選考会

ねんりんピック強化委員長 神谷 正敏

六月二十七日(日)、第三十回岐阜県健康福祉祭剣道交流大会が、関市板取体育館で開催されました。

今大会は、令和二年十月に開催する予定でした「全国健康福祉祭ぎふ大会」が、新型コロナウイルス感染症拡大により、今年に延期になったことを受け、選手選考会も兼ね行われました。

岐阜県内の六地区からそれぞれ二チームずつ代表選手が参加し、初めに、四試合場にて、リーグ戦が行われ、その後、決勝リーグ戦が行われました。

全国大会が岐阜で開催されるということで、選手の皆さんは、勝敗を賭け充実した試合が展開されました。結果は、次のとおりです。

- 一位 西濃地区A
二位 西濃地区B
三位 東濃地区A





優勝 西濃地区 A

なお、「全国健康福祉祭ぎふ大会」岐阜県選手は、選考会で次のとおり選出されました。

岐阜県Aチーム

- | | |
|-------|-------|
| 監督兼選手 | 磯部 範彦 |
| 先鋒 | 竹中 和春 |
| 次峰 | 久保山 敏 |
| 中堅 | 三橋 紀仁 |
| 副将 | 吉田 則文 |
| 大将 | 土本 栄一 |
| 補欠 | 田口 一輝 |

岐阜県Bチーム

- | | |
|-------|-------|
| 監督兼選手 | 服部 照光 |
| 先鋒 | 伊藤 彰 |

岐阜県Cチーム

- | | |
|-------|-------|
| 次峰 | 海老 正浩 |
| 中堅 | 太田 博文 |
| 副将 | 塚本 六美 |
| 大将 | 後藤 誠 |
| 補欠 | 西野 勇 |
| 監督兼選手 | 上坪 道利 |
| 先鋒 | 島戸 和行 |
| 次峰 | 安江 誠 |
| 中堅 | 古田 秀文 |
| 副将 | 大坪 千歳 |
| 大将 | 箕浦 基雄 |
| 補欠 | 和田 英見 |

こうした選手の選考を行うまでに平成二十九年から関市のアテナ工業アリーナ（総合体育館）にて毎月強化稽古会を行ない、優勝を合言葉に、稽古を重ねてまいりました。

一方、大会の運営につきましても、「全国健康福祉祭ぎふ大会」を岐阜県で開催（令和三年十月三十日～十一月二日）するにあたり、大会をぜひ成功させなければというこゝとで、下島貴代一理事長を始め、三輪真司先生・山田谷正先生・県剣連盟事務局の皆さんと関市で、大会の運営等、詳細について打ち合わせを行ない、大会開催に向けて準備を進めてきました。しかし新型コロナウイルスの感染症拡大により、残念ではありますが、大会を中止せざるを得ない状況となりました。

十一月二十七日（土）大垣市武道館に大会出場の岐阜県代表三チームの監督・選手の皆さんが集まっていただき、堤会長から大会中止になった報告と今後の全



解散式にて県代表チーム

国健康福祉祭参加における活躍に期待する旨のお話があり、その後、選手全員で稽古を行ない、今回の強化稽古会をもって解散いたしました。今大会は中止になりましたが、三年後の令和七年には、再度、岐阜県で開催することになり、今回の経験を無駄にせず、

大会が無事開催できますことを祈りたいと思います。

最後になりましたが、「全国健康福祉祭ぎふ大会」を開催にあたり、岐阜県及び関市スポーツ推進課の皆様から多大な御指導・ご協力いただきましたこと心から感謝申し上げます。

祝昇段

令和三年度の剣道・居合道の称号、段位（六段以上）合格者は、次の皆さんです。合格おめでとうございます。更なるご精武を祈念します。

《剣道称号》

- 五月三日 京都
 - 錬士 高石 靖子（多治見）
 - 野村 昌史（高山）
 - 中間眞理子（揖斐）
- 教士
 - 北原 明直（大垣）
 - 島戸 和行（山県）
 - 藤澤 辰也（下呂）
 - 倉知 一久（関）

《剣道七段》

- 五月十五日 愛知
 - 平野 千尋（美濃）
 - 山本 学（可児）
 - 藤原 精起（揖斐）
 - 小池 悦子（養老）
 - 伊藤 正朗（中津川）

《剣道六段》

- 五月十六日 愛知

浅野 孝介 (大垣)
 松本 将史 (多治見)
 藤井 紀幸 (加茂)
 青木 信秀 (大垣)
 中矢 剛 (高山)
 加藤 信基 (岐阜)
 塩谷 博英 (岐阜)
 大場 純治 (大垣)
 高木 博人 (養老)

《居合道六段》

●七月二日 新潟
 高田 齐 (岐阜)

《居合道七段》

●七月二日 新潟
 志津野泰幸 (岐阜)

《剣道七段》

●八月七日 福岡
 益田亜希子 (岐阜)
 ●八月二十一日 新潟
 柘植 紀子 (加茂)

《剣道六段》

●八月八日 福岡
 藤井 淳 (不破)

《居合道六段》

●十一月七日 東京
 栗本 英 (岐阜)
 内藤 義秀 (揖斐)

《居合道七段》

●十一月七日 東京
 中川由紀子 (岐阜)

《剣道七段》

●十一月十三日 愛知
 中川 節絵 (岐阜)
 竹内 浩史 (岐阜)
 後藤 弓江 (関)
 秋田 幸寛 (加茂)
 山本 雅喜 (岐阜)
 山下 佳彦 (岐阜)
 安田 広英 (岐阜)
 榎林 優 (可児)
 後藤 弘司 (本巢)
 加藤 治良 (多治見)

《剣道六段》

●十一月十四日 愛知
 栗本 匠 (岐阜)
 五十嵐 洸 (岐阜)
 櫻井 貴幸 (岐阜)
 牧 大佑 (養老)
 浅川 正堂 (岐阜)
 福田 陽祐 (本巢)
 木村 武嗣 (羽島市)
 日野 直人 (岐阜)
 成瀬有紀恵 (加茂)
 青木 透 (本巢)

《剣道称号》

●十一月二十三日 東京
 錬士 桃瀬 優 (大垣)
 恒川 和也 (本巢)
 坂本 太一 (岐阜)
 高木 和哉 (岐阜)
 野口 隼人 (関)
 釜付 力 (岐阜)
 紅谷 祐治 (加茂)
 左近 豊子 (各務原)

教士

道上 勝彦 (高山)
 石原 幸一 (加茂)
 中川 俊克 (岐阜)
 荒垣 雅行 (飛騨)
 今藤 憲大 (岐阜)
 清水 美貴 (大垣)
 杉江 正直 (不破)
 安藤 貴治 (羽島市)
 河西貴一郎 (本巢)
 田原 了 (加茂)
 藤原 光彦 (大垣)
 服部 幸子 (多治見)
 大橋 謙司 (海津)
 古川 清之 (各務原)

《剣道七段》

●二月十九日 山梨
 山北 麻未 (羽島市)

《剣道六段》

●二月二十日 山梨
 河合 秀俊 (岐阜)
 森 俊樹 (可児)
 佐藤 聡 (本巢)

少年剣道

◎第46回春季少年剣道錬成大会

六月二十六日(土) 第四十六回春季少年剣道錬成大会が、県内各地から、五百人を超す少年剣士が集まり、OKBぎふ清流アリーナで開催されました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場内への人数制限を設け、会場内の案内表示に従い、入口と出口を分け、また、客席も前後左右一人分を空けて座るなど、感染対策をとりながらの開催となりました。

大会開催に先立ち、下鳥理事長から、「試合者は、鏢競り合いを避ける。やむを得ず鏢競り合いとなった場合は、すぐに分かれるか、引き技を出す」など、新型コロナウイルスが収束するまでの暫定的な試合・審判法について、説明がありました。

少年剣士は、コロナ禍でありましたが、日頃の練習の成果を充分出し、気迫あふれる試合内容となりました。結果は、次のとおりです。



小学1・2年生 (パート1)



小学3年生 (パート1)



小学3年生 (パート2)

	優秀賞	優良賞	敢闘賞	敢闘賞
1.2年生の部	加藤結乃愛 (志道館)	片岡 陸人 (さくら会)	門永 悠聖 (一剣)	梅村 充 (羽島剣少)
3年生の部 (パート1)	本山 旺晟 (下有知)	澤村 龍哉 (関ヶ原)	日比 悠真 (一剣)	川島悉花瑠 (誠心剣)
3年生の部 (パート2)	小嶋 一 (若鮎剣志会)	森山 心結 (八心会)	岡田 流奈 (双葉剣少)	日比美空陽 (大垣北少)
4年生の部 (パート1)	梅地 陽斗 (聖心館)	前田 颯太 (蘇一剣少)	鈴木 蒼人 (一剣)	辻 蒼翔 (下有知)
4年生の部 (パート2)	森 奏斗 (神武館)	霜出 宗介 (済命館)	牧 蒼空 (志道館)	坂 煌大 (鶉剣少)
5年生の部 (パート1)	上村 海哩 (一剣)	林 星偉 (さくら会)	天本 大空 (大垣西部)	長瀬 裕紀 (桐生剣教)
5年生の部 (パート2)	三宅 真央 (志道館)	稲垣絢士郎 (剣林館)	谷脇 隼輝 (飛驒国府)	白井 美柚 (雙柳館前)
5年生の部 (パート3)	井戸 琉聖 (孫六剣少)	渡邊 慎介 (誠心剣)	佐藤 梨奈 (桐生剣教)	早川 陸斗 (大野剣少)
6年生の部 (パート1)	大矢 晃平 (さくら会)	松岡 唄子 (誠心剣)	榮 晃之助 (聖心館)	堺 梨紗 (双葉剣少)
6年生の部 (パート2)	政綱 大治 (悟道館)	成瀬煌之助 (美濃加茂)	水野 優那 (志道館)	土本 晃生 (八心会)
6年生の部 (パート3)	松浦 崇大 (緑苑剣少)	鈴木 茂波 (一剣)	村岡 瑞希 (悟道館)	井奈波奏太 (精華)
6年生の部 (パート4)	柴田 莉瑚 (羽島剣少)	松田 春香 (北辰会)	佐藤 瑞稀 (大垣西部)	辻 悠人 (雙柳館岩)



小学5年生 (パート1)



小学4年生 (パート2)



小学4年生 (パート1)



小学6年生 (パート1)



小学5年生 (パート3)



小学5年生 (パート2)

中学剣道の記録



小学6年生 (パート2)



小学6年生 (パート3)



小学6年生 (パート4)

下有知中学校・丹生川中学校
西可児中学校
女子団体戦東海大会出場校
荘川中学校・白鳥中学校
池田中学校・多治見中学校
境川中学校

男子個人の部

優勝 森川 大翔② (蘇南)
準優勝 三宅陽一朗① (関ヶ原)
第三位 村上 宥皇② (高田)
武市 望歩③ (中部)
ベスト8 中谷 悠翔③ (日枝)
木村 将馬③ (三輪)
新井 龍信③ (池田)
高岡 和真② (神戸)

女子個人の部

優勝 山田 遥③ (大垣西部)
準優勝 多和田妃紗③ (不破)
第三位 坂井 柚月③ (桜丘)
大野 夏鈴① (日枝)
ベスト8 丸山陽菜子③ (青山)
小野木優真① (大垣東)
石原 彩伽 (岐大附属)
井道 礼美③ (白川)

東海大会には、右記のベスト8以上の選手が出場しました。

全国大会には、

男子団体の部 緑陽中学校
女子団体の部 大和中学校

男子個人の部 森川 大翔② (蘇南)

三宅陽一朗① (関ヶ原)
女子個人の部 山田 遥③ (大垣西部)
多和田妃紗③ (不破)
以上の中学校及び選手が全国大会へ出場しました。



男子優勝 緑陽中



女子優勝 大和中

今年度も昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の拡大及び再拡大に伴い、中学生が参加する大会等が延期もしくは中止となりました。

その中で、岐阜県中学校体育連盟が主催する大会は、例年通り実施され、その結果を報告します。

今後、新型コロナウイルス感染症が終息し、これまで通りの大会、錬成会が運営されることを期待しています。

◎令和三年度岐阜県中学校

総合体育大会剣道競技大会

令和三年七月二十四日、二十五日
OKBぎふ清流アリーナ
今年度は、新型コロナウイルス感染症

男子団体の部

優勝 緑陽中学校
準優勝 真正中学校
第三位 池田中学校

女子団体の部

優勝 大和中学校
準優勝 桜丘中学校
第三位 神戸中学校

右記以外に、東海大会出場校は、左記の通りである。

男子団体戦東海大会出場校

蘇南中学校・関ヶ原中学校



女子個人の部 上位入賞 8選手



男子個人の部 上位入賞 8選手

◎第四十三回東海中学校 総合体育大会

八月六、七日
三重県四日市市 四日市市総合体育館
男子団体の部での上位入賞校は残念ながら、ありませんでした。

女子団体の部

準優勝 大和中学校
個人の部については、男女ともに、残念ながら、上位入賞はありませんでした。

◎第五十二回全国中学校 剣道大会 神奈川大会

八月二十、二十一、二十二、二十三日
神奈川県 とどろきアリーナ

女子団体の部 (八月二十日)

大和 0-4 加古川中 (兵庫)
予選リーグ敗退

男子団体の部 (八月二十一日)

緑陽 0-4 長崎南山中 (長崎)
予選リーグ敗退

女子個人の部 (八月二十二日)

一回戦
山田 (大垣西部) シード
多和田 (関ヶ原) メー 尾蔵 (鶴来中・石川)
二回戦
山田 (大垣西部) | コメ橋本 (三瀬中・佐賀)
多和田 (関ヶ原) | メ 淡路 (勝平中・秋田)
延長戦の未敗退

男子個人の部 (八月二十三日)

一回戦
森川 (蘇南) シード
三宅 (関ヶ原) メー 松井 (雄山中・富山)
延長戦の未勝利
二回戦
森川 (蘇南) コメー 河野 (串間中・宮崎)
三宅 (関ヶ原) | メ 水口 (杵築中・大分)

高校剣道の記録

岐阜県高等学校剣道専門部

加茂高等学校 柘植 未来

◎第六十九回岐阜県高校総体

五月二十二日 (男女個人)
ふれ愛ドーム
五月二十九日 (女子団体)
下呂交流会館
五月三十日 (男子団体)
下呂交流会館

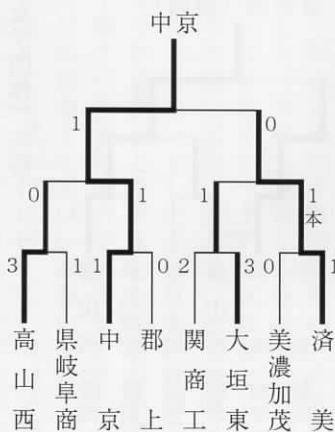
男子団体決勝は中京が済美を破り、十四年ぶりの優勝の栄冠を手に入れた。女子団体決勝は、実力伯仲で激戦を勝ち上がった高山西と中京の対戦となった。高山西が接戦を制し、二年ぶりの優勝を飾った。

個人戦では、男女とも昨年度の県新人決勝と同じ対戦カードとなった。結果は、男子個人は高山西・阪野、女子個人は中京・井上が優勝を果たした。

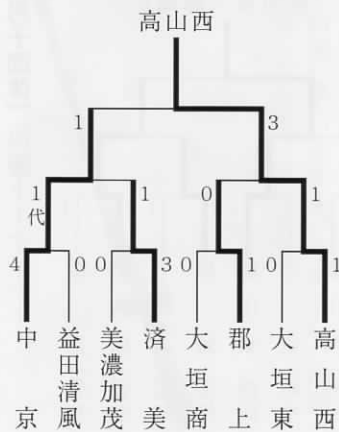
三回戦
森川 (蘇南) | メ 今村 (雄山中・富山)
コロナ禍の全国大会でしたが、団体戦、個人戦に出場したどの選手も最後まであきらめず試合に臨むことができました。応援ありがとうございました。

(文責) 上出 篤史

【男子団体】 (四十三校出場)



【女子団体】 (二十九校出場)



※優勝校が全国大会へ出場。
ベスト四入賞校が東海大会へ出場。



女子優勝 高山西



男子優勝 中京

【女子個人】(九十四名出場)

- 優勝 井上 彩良(中京)
- 準優勝 樋口 恵淑(高山西)
- 三位 鈴木穂乃香(済美)
- 石井 桃花(中京)
- 五位 真下いちこ(麗澤瑞浪)
- 井藤 奈々(美濃加茂)
- 森 文那(高山西)
- 清水 梨帆(美濃加茂)



男子上位入賞4選手

【男子個人】(百十三名出場)

- 優勝 阪野 理達(高山西)
- 準優勝 前田 健心(中京)
- 三位 岡田 真周(済美)
- 村上竜之輔(高山西)
- 五位 丹羽 悠人(美濃加茂)
- 田上 幹太(益田清風)
- 大野 竜幹(市岐阜商)
- 西村 怜修(中京)

◎第六十八回東海高等学校
総合体育大会

六月十九・二十日

ゆめドームうえの(三重県)

団体戦は、男子団体において、中京・高山西が五位入賞、女子団体において、済美が準優勝、高山西が三位に入賞した。個人戦は、男子個人において高山西の阪野が五位、女子個人において中京の井上が五位入賞という結果であった。今大会は、団体戦・個人戦ともに他県選手団のパワーに押された様子であった。

※上位二名が全国大会へ出場。
上位八名が東海大会へ出場。

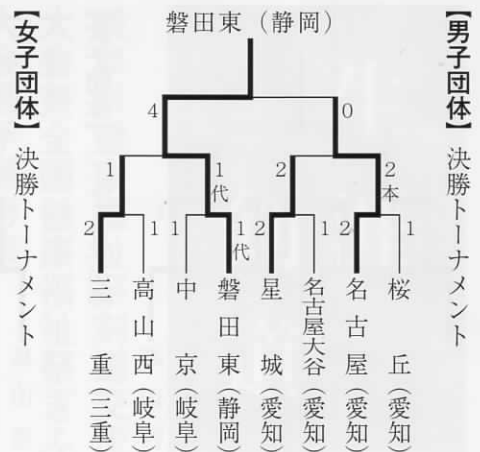
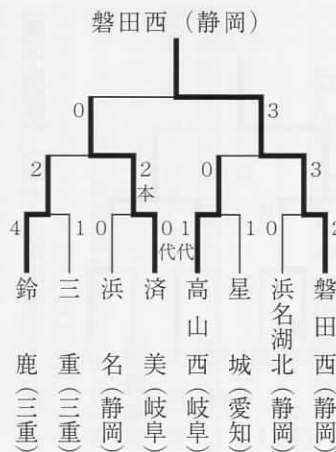


女子上位入賞4選手

◎第六十八回全国高等学校
総合体育大会

八月九日～十二日
いしかわ総合スポーツセンター(石川県)

- 【男子個人】
- 五位 阪野 理達(高山西)
 - 【女子個人】
 - 五位 井上 彩良(中京)



団体戦では男女とも予選リーグ敗退という結果で終わってしまったが、個人戦では、中京の前田、高山西の樋口が五位に入賞し、男女ともに好成績を収めた。

【男子団体】

中京 予選リーグ敗退

○予選リーグ

第一試合 中京 0-1 龍谷富山(富山)
第二試合 中京 0-2 高知(高知)

【女子団体】

高山西 予選リーグ敗退

○予選リーグ

第一試合 高山西 3-0 富山北部(富山)
第二試合 高山西 1-3 明石(兵庫)

【男子個人】

○阪野 理達(高山西・三年)

一回戦 阪野コー樋口(明大中野・東京)

二回戦 阪野ーメ杉山(和歌山東・和歌山)

○前田 健心(中京・二年)

一回戦 前田メー岩村(清風・大阪)

二回戦 前田コー高橋(秋田商業・秋田)

三回戦 前田メー長谷川(新潟商業・新潟)

四回戦 前田メー香川(杵築・大分)

準々決勝 前田メー渡會(仙台育英・宮城)

【女子個人】

○井上 彩良(中京・三年)

二回戦 井上メ國分(久留米商業・福岡)

○樋口 恵淑(高山西・二年)

一回戦 樋口コー著尾(荏田・神奈川)

二回戦 樋口メー福島(大社・島根)

三回戦 樋口コー柏木(小緑・沖繩)

四回戦 樋口コー菅藤(聖光学院・福島)

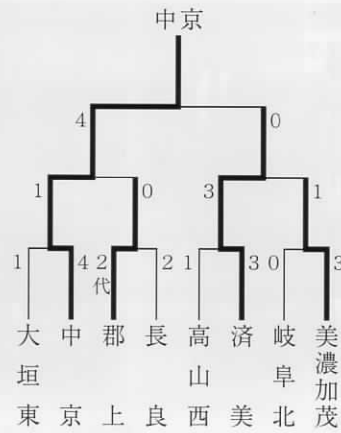
準々決勝 樋口ーツ反長谷川(四日市工業・三重)

◎第六十七回岐阜県高等学校 剣道新人大会

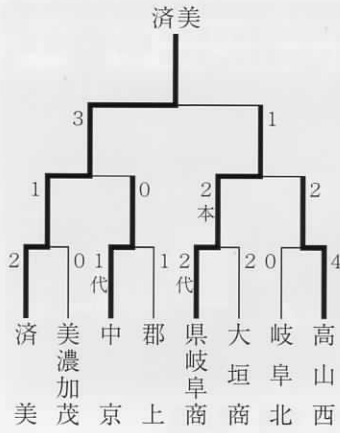
十一月二十七・二十八日
アテナ工業アリーナ

男子団体戦においては、中京が安定した試合運びで勝ち進み、高校総体に引き続き優勝を果たした。また、男子個人においても上位三人が中京の選手であった。また、女子団体戦においては、済美が新人戦初優勝の栄冠を手に入れた。
女子個人戦では様々な学校の選手が上位に進出し、熱戦を繰り広げた。

【男子団体】(三十七校出場)



【女子団体】(二十五校出場)



女子優勝 済美



男子優勝 中京



女子上位入賞4選手



男子上位入賞4選手

【男子個人】(四十名出場)

優勝 内匠 悠翔(中京)

準優勝 前田 健心(中京)

三位 柴田 隼吾(高山西)

西村 怜修(中京)

【女子個人】(四十名出場)

優勝 高瀬 円香(済美)

準優勝 樋口 恵淑(高山西)

三位 安藤 遥(中京)

森 文那(高山西)

◎第三十二回全国高等学校
剣道選抜大会

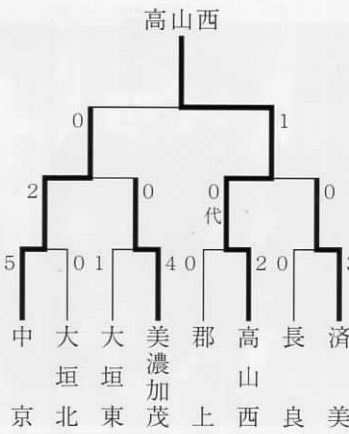
兼第八回東海高等学校
剣道選抜大会岐阜県予選会

二月五日

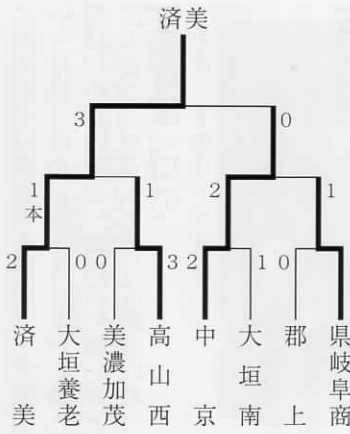
OKBぎふ清流アリーナ

男子団体戦は、新人戦で辛酸を舐めた高山西が決勝で中京を破り優勝を飾った。女子団体戦は、済美が十一月に開催された新人戦に引き続き優勝を飾り、初の全国の舞台への切符を手に入れた。

【男子団体】（三十五校出場）



【女子団体】（二十一校出場）



女子優勝 済美



男子優勝 高山西

◎第八回東海高等学校
剣道選抜大会

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

◎第三十二回全国高等学校
選抜剣道大会

三月二十六～二十八日
春日井市総合体育館

今年度は、男子が高山西、女子が済美の二校が出場した。

男女とも、初戦敗退という結果で終わった。

【男子団体】
○高山西
一回戦

高山西 ○—二 高知（高知）

【女子団体】
○済美
一回戦

済美 ○—一 富岡東（徳島）

道場連盟の活動

◎第四十四回体験実践発表
岐阜県予選会

【十月二日（土） 雙柳館浅川道場】

勝った負けたの向こう側に・・・。
剣道を通じて何を学び実践し、人として如何に成長したかを発表する大会。本来なら、発表に耳を傾けようと、たくさん剣士が集い、発表会後は、剣を交え共に汗を流すこの体験発表会ですが、コロナの影響を考え、全理事を審査員としての書類選考としました。

【中学生県代表者賞】 作品数 四部

石原 彩伽（悟道館後藤道場）

二位 小原 大樹（雙柳館岩崎）

三位 木村 将馬（雙柳館岩崎）

※【本年度登録数】

・加盟団体数：四十七団体

・会員登録選手数：八百十一名

（文責）岐阜県剣道道場連盟 事務局局長

早矢仕克己



居合道の活動

◎第五十六回

全日本居合道大会

監督 香村 茂

令和三年十月九日、東京都足立区綾瀬の東京武道館において開催されました。令和二年に石川県開催がコロナ感染症拡大の為に中止になって以降二年ぶりの開催となりましたが、今年から開催地が東京都に固定されることに決定され、コロナ対策の中での大会は時間割の設定など従来と異なる大会となりました。

コロナの為に欠場する県があることも危惧されておりましたが監督と選手一名で参加された県もあり、コロナ禍でもすべての都道府県が大会に参加することができました。

岐阜県選手団は監督 香村茂、五段 栗本英、六段 渡辺直、七段 矢澤夏女の四名にて編成。コロナ禍で強化稽古も満足に出来ない不十分な状況で大会に臨みました。

指定技は四回戦まで「諸手突き」「添え手突き」「総切り」準決勝戦および決勝戦「受け流し」「三方切り」「四方切り」試合は七段の部、矢澤選手 一回戦は宮崎の金山選手と対戦し1対2で敗退、六段の部、渡辺選手 一回戦は富山の塚原選手と対戦し3対0で勝利、二回戦は熊本の松井選手と対戦し2対1で勝

利、三回戦は山梨の村松選手と対戦し0対3で敗退、五段の部 栗本選手は一回戦シード、二回戦は群馬の吉村選手と対戦し1対2で敗退、岐阜県は総合成績二十五位の結果で終わりました。

全日本大会を終えて今後の課題としては、技を正確に、緩急、強弱、仮想敵との間と間合い、気魄、残心、強化稽古を通して居合道部全員で取り組み、来年度以降の全日本大会には、今回より上位の成績が残せるように努力いたします。

事務局だより

令和三年度全剣連表彰

剣道の振興に寄与したとして、次の方が団体が全剣連より表彰されました。

剣道有功賞

○山小瀬 進 先生

剣道教士 七段

平成八年から平成十九年まで岐阜県剣道連盟評議員、平成二十年から令和元年まで、岐阜県剣道連盟常任理事を務められました。

現在も岐阜県剣道連盟相談役の役職に

就くなど、識見卓越の人物で他の模範であり、長年にわたり岐阜県の剣道界発展のため、寄与された。

少年剣道教育奨励賞

○清心会

ア 活動期間 平成十六年四月～現在
イ 会員数 指導者五人・少年十八人・高校生一般十人

ウ 心と体を鍛えるとともに、基本打ちを中心に行い、一時的な剣道ではなく、生涯を通じて剣道を行うことの大切さを重視し指導している。
エ 活動日数 週三回（月・水・土）

○真正剣道スポーツ少年団

ア 活動期間 昭和四十五年四月～現在
イ 会員数 指導者四人・少年二十三人
ウ 昇級・昇段を目指すとともに、礼儀を大切にすることや感謝の気持ち等を育てることなど、人間形成に努めることを目的に活動している。
エ 活動日数 週二回（火・木）

○大垣市北小剣道スポーツ少年団

ア 活動期間 昭和五十六年四月～現在
イ 会員数 指導者三人・少年十五人
ウ 気の集中力と瞬間的な判断力を養うとともに、基本打突を中心に、応じ技など年齢に即した稽古及び剣道の礼法・作法も含め指導している。
エ 活動日数 週二回（水・金）

○東白川少年剣道クラブ

ア 活動期間 昭和五十六年十月～現在

イ 会員数 指導者二人・少年十人・高校生一般五人

ウ 逞しい身体と何事にも挫けない精神力を育むための活動を推進するとともに、気剣体一致の正しい打突や打突の機会を習得させることなどを重視し指導している。
エ 活動日数 週二回（水・金）

○創武館内田道場

ア 活動期間 昭和五十一年四月～現在
イ 会員数 指導者五人・少年十人・高校生一般五人
ウ 剣道を通して、礼儀作法を身につけさせること、心身を練磨することや基本打ちの大切さや集中力を高めることなどを重点に指導している。
エ 活動日数 週二回（月・金）

岐阜県スポーツ賞

スポーツの分野における国際大会での入賞や全国大会で三位以内に入るなど優秀な成績を取った個人及び団体として次の団体が表彰されました。

○わかかさ女子剣道部

第十三回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会で前回大会に続き三位に入賞し、優秀な成績を収められました。



令和四年度・五年度 新役員

会長
堤俊彦

副会長
野林 忠文 洋

顧問
日下部 守富

相談役
杉原 明一
篠原 絃馬
土屋 和治
櫻井 鋭馬
村瀬 隆平
山瀬 進平
金子 義臣

理事長
下島 貴代一

常任理事
神谷 正敏
磯部 彦彦
三輪 真司
高山 容正
山崎 彦彦
松尾 昌彦
木下 博文
神田 俊雄
杉岡 孝治
近藤 宏治

理事

服部 昌弘 (岐阜)
下野 貴代一 (岐阜)
藤野 柳一 (西濃)
竹中 保春 (西濃)
菊池 利文 (中濃)
富田 信彦 (加茂)
安部 成彦 (東濃)
野中 繁彦 (飛騨)
森本 尚行 (飛騨)
村上 智泰 (高学)
上出 篤史 (居合道)
香村 篤史 (居合道)
都立 裕孝 (道連)

監事

渡邊 良三 (飛騨)

評議員

福嶋 保博 (岐阜)
中嶋 俊彦 (岐阜)
辻田 ゆかり (羽島)
時田 廣吉 (各務原)
原田 明吉 (本巣)
小栗 芳明 (羽島)
川本 公男 (山形)
渡邊 和泉 (大垣)
篠田 透人 (大垣)
早野 久人 (養老)

審査員選考委員

高津 智也 (不破)
松本 哲 (揖斐)
坪井 重樹 (関)
野口 正人 (美濃)
古田 秀文 (郡上)
森田 啓吉 (郡上)
安部 誠治 (可児)
服部 光治 (多治見)
伊藤 彰一 (土岐)
土本 栄一 (瑞浪)
川畑 明一 (恵那)
小川 智也 (中津川)
岩木 克也 (高山)
山方 康也 (高山)
山中 研生 (下呂)
板屋 洋一 (飛騨)

居合道

磯部 俊彦
神田 貴代一
野林 貴代一
下野 貴代一
香村 貴代一
下島 貴代一

学識経験者

神田 貴代一
磯部 俊彦
下野 貴代一
香村 貴代一
下島 貴代一

事務局

事務局長 谷口 真香
専従職員 大西 一郎
事務局長 甲木 修一
事務局長 中村 幸枝
事務局長 安田 幸枝
事務局長 金子 宣英
事務局長 白川 順一

理事・業務担当一覧

- 総務担当
木下 博文
村瀬 昌弘・安部 成信
- 財務担当
神田 俊雄
富多 利彦・稲田 尚行
- 審査担当
山田 容正
服部 照光・藤野 柳一
- 講習担当
磯部 範彦
竹中 和春・郡竹 直孝
※福富 保博 (授業協力者)
※吉田 則文 (授業協力者)
- 大会担当
高石 和摩
浅川 裕茲・野中 孝彦・森本 繁司
- 強化担当
近藤 宏治
三輪 真司 (ねんりん)
香村 茂 (居合道)
村瀬 智泰 (高校)・上出 篤史 (中学)
※樽本 吉秋 (成年男子)
※富多ちほり (女子) ※加藤 洋基 (少年)
- 広報担当
神谷 正敏
松尾 祐治・菊池 博文
- 普及担当
山崎 昌彦
杉岡 孝子
※富多ちほり

(●印は委員長)
(※印は理事以外)

訃報 (敬称略)

★白木 恒美 (剣道教士七段)
岐阜県剣道連盟元常任理事
令和3年8月4日逝去 (73才)

